

評価報告概要表

第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成19年1月26日(金)

福祉サービス事業者情報

名 称	伊保庄園	種 別	特別養護老人ホーム
代表者氏名	施設長 河本洋三	開設年月日	昭和51年4月1日
設 置 者	社会福祉法人 山口県社会福祉事業団	定員(利用人数)	100名(100名)
所在地	〒742-1352 柳井市伊保庄1-2		
電話番号	0820-27-0840	FAX番号	0820-27-0841
ホームページアドレス			

総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

特に評価の高い点

制度や環境の変化に対応した中・長期計画が策定され、年度ごとの事業計画は、事業団の基本理念・基本姿勢を反映した具体的な実施計画となっており、その計画策定に当たっては利用者や家族の要望や意見を初めとして、現場の多くの職員の率直な声も取りあげられています。朝夕の申し送りや職員会議、運営会議、各種委員会など職員同士の情報の共有化が十分に行われており、利用者満足度調査やアンケート調査、職員の自己評価の実施などサービスの質の確保に向けての取り組みも意欲的に行われています。事故防止や緊急時の対応、衛生上や感染症などの対応では、リスクマネジメント委員会を中心とした組織内のシステムがきちんと整備され、利用者の安全確保に向けての対策を実行しています。利用者のケアプラン、介護記録、看護記録などのサービス実施記録や会議録、個々のサービスの実施マニュアルなど各種書類が適切に整備されており、記録・書類の管理体制も責任者が配置され、万全といえます。

改善を求められる点

職員の教育・研修においては、人事考課制度の利点も考慮に入れながら、一人ひとりの職員の持っている技量・能力等を評価・分析し、その結果に基づいた計画を立てることをお勧めします。地域的に困難な面もあると思いますが、利用者への地域行事の情報提供や、地域住民との交流の機会をできるだけ増やしてほしいと思います。施設全体での食事環境は整えられていましたが、支援が必要な利用者への食事形態や治療食などにもう少し工夫がみられると良いと思われます。

第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

このたび第三者評価の評価結果を受け、的確な評価を戴いたと感じているところです。受審を前にした準備段階において、改めて利用者本位のサービス提供やサービスの質の向上を図っていく上での取り組みの重要性を痛感したところです。今後も、現状に満足することなく、更に『その人らしさを大切に』施設サービスの提供に組み込みたいと思います。また、改善を求められた項目についても、創意工夫をしていきたいと考えています。

評価報告概要表

評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

福祉サービスの基本方針と組織	a	12	b	0	c	0	Na	0
<p>将来的な福祉の動向を見据えた中・長期計画が策定されており、年度ごとの基本理念・基本方針に沿った事業計画は、職員会議や運営会議、各職域での分析・検討を経て策定され、職員はもちろんのこと、利用者や家族に対しても十分に周知されていることは高く評価できる点です。朝の申し送りやミーティング、運営会議など施設長自らがリーダーシップを発揮しながらの話し合いが盛んに行われ、施設経営や業務の効率化と改善に向けた積極的な取り組みが実施されています。</p>								

組織の運営管理	a	12	b	5	c	4	Na	0
<p>市や市社協の福祉計画策定に積極的に参画することにより、事業環境や地域の福祉ニーズを把握をするなど経営環境の変化にすばやく対応しておられます。リスクマネジメント委員会を毎月開催し、事故防止のための分析・検討を行い、職員に対して常に啓発を行うなど利用者の安全確保のための取り組みを行っています。職員への教育や研修計画は施設全体としてのものでしたが、職員一人ひとりの特性を活かした具体的な研修計画を立てることで、職員のモチベーションを高め、より専門性の高いサービスの質の向上に役立つものと思われます。</p>								

適切な福祉サービスの実施	a	26	b	0	c	0	Na	0
<p>利用者満足度調査の実施や、毎月の利用者懇談会、家族会でのアンケート実施など利用者や家族の要望や意見を積極的に取り入れ、利用者本位のサービスに取り組んでいることは大いに評価されることです。また、日頃から申し送りや職員会議、運営会議、ケース検討会議など職員同士の情報の共有化が頻繁に行われており、自ら行うサービスについても年2回自己評価を行い、その結果を分析・検討し、改善課題を明確にするなどサービスの質の確保に向けての取り組みも同様に評価されることです。</p>								

良質な個別サービスの実施	a	20	b	1	c	0	Na	0
<p>多床室のある従来型の施設でありながら、部屋をカーテンやパーテーションで仕切ったり、新たに戸棚を設置したり、ユニットごとに食堂を兼ねたコーナーを設置してくつろぎの空間を作るなど、利用者の生活環境が職員の様々な工夫によって整備されています。嗜好調査の実施や給食会議への利用者の参加、誕生会での食事会への家族の参加など、利用者本位の快適な食事環境が整備されています。ただ、支援の必要な利用者へのソフト食の対応にもう少し工夫が見られると良いと思います。</p>								